

鷺宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.29(2025. 4 月)

社会科同好会編⑩ 「第4回 弁護士トーク会 ～ヘイトスピーチ～」

2025年4月12日(土)、弁護士の太田さんからお話を聞く「弁護士トーク会」の第4回を開催し、9名の生徒、3名の社会科教員が参加しました。今回のテーマは、ヘイトスピーチです。個人の意思では変更出来ない属性について攻撃する、という特性があり、在日コリアンに対しては、「京都朝鮮学校襲撃事件」(2009年12月4日)のほかにも、大阪の鶴橋、東京の新大久保などの繁華街、神奈川県のカキ・桜本などでヘイトスピーチが発生しています。

太田さんは2013年に新大久保で行われた「デモ」の特徴を示すために、「デモ」参加者のプラカードを一枚、紹介されました。そこには、「良い韓国人も悪い韓国人もどちらか殺せ」と書かれていました。これが「デモ」として認められる、周囲の警察官も「デモ」参加者を守っているように見える・・・これが、「表現の自由」？・・・その後、ヘイトスピーチに対抗して、「仲良くしよう」「民族差別はやめよう」というプラカードを掲げ、体を張ってデモ隊を阻止する路上シットイン(道路に寝転ぶ)を行う市民が登場するなか、2016年5月、ヘイトスピーチ解消法が作られ、「ヘイトスピーチはやってはいけない」という認識が広まると、あからさまな「デモ」は姿を消したそうです。

「市民的勇気」(公正さを守るのは最初は1人ひとり。ヘイトスピーチの法規制の前に、市民の抵抗があった)の大切さや、「知性で闘うしかない、知の力で乗り越える」という、信念に基づく言葉が印象に残りました。

以下、参加した生徒の感想を紹介します。

- ◆シットインは周りに「あなたはどうか」と問うきっかけになる。対抗していく姿がすごい。罰金ていどの法規制でもヘイトデモを無くせることを知って、本来の法のあり方だと思った。
- ◆初めて知った。もっと知識を蓄えたい。
- ◆差別を利用して人気を得る政治家がいる。そういう人には投票してほしくないし、議員になってほしくない。
- ◆ヘイトスピーチは授業でしか知らなかった。本人にどうしようもない部分を指摘するのは、表現の自由ではない。政治家は「日本国民のためにやっている」と言う。たしかに自分たちの生活を良くしてほしい気持ちはあるが・・・差別ではない形で実現してほしい。
- ◆誰かをおとしめるのはタブーのはずなのに、政治に利用するのはよくない。
- ◆桜本の子が外にいくとき、名前を変える背景には、政治家による意図的なデマがある。差別で人気を集める政治家がいる、ああここもか、と、嫌になる。ネットでは不十分なことを話せてよかった。
- ◆ヘイトスピーチというのは今まで問題になっている程度の認識で、私自身大して興味・関心を持って調べることとはなかったが、今回話を聞いたことにより私自身に実害がないため知らなくていいことではないということに深く気付かされた。現在日本では各所で移民受け入れによる問題が出てきているが、それに対してデモや抗議を行う際、事実と主観を切り離し、行動していくことが大切だと思った。
- ◆弁護士トークに初めて参加し、ヘイトスピーチをテーマに、自分が分からない細かい内容まで知ることができました。例えば、ヘイトスピーチ解消法ができたことによって、在日朝鮮人の被害が減ったり、シットインによる逮捕が減ったりするなどといったことを知れてよかったです。

